

けんぶち ふれあいネットワーク 社協だより

2022年6月
No.104

発行
社会福祉法人
剣淵町社会福祉協議会

〒098-0338 上川郡剣淵町仲町28番1号 ふれあい健康センター内 Tel0165-34-3922



ふれあいサロン

ふれあいサロン活動の中で、文化協会のかたによる三味線と尺八の演奏を披露して頂きました。

主な内容

- 会長挨拶
- 令和3年度事業報告・決算書
令和4年度事業計画
- ふれあい広場のご報告
- ふれあい昼食会
- 仲町小公園花壇造成
- ささえ手ボランティアのご案内

ありがとう
剣淵



江端芳子様より、社会福祉協議会に対してご寄付を頂きましたので感謝状を贈呈させていただきました。

町内にお住いの高齢・障がいを抱えた皆さま



買い物に行けない…。



ゴミを出せない…。



高い所の掃除が難しい…。

日常のちょっとした困りごとを…

「ボランティアさん！」

にお願いしてみませんか？



剣淵町社会福祉協議会

剣淵町仲町28番1号(健康センター内)

☎34-3922

ふれあい昼食会

5月12日に今年度第1回目のふれあい昼食会を行いました。
 近隣市町村でのコロナ発生状況を踏まえ、参加者の方々にソーシャルディスタンスを図りながら、会食を行わずお弁当をお持ち帰りしていただく形で開催しました。
 また、今回は役場住民課の方による一般ごみ有料化についての説明会を行いました。
 今年度は9月、11月、2月（剣淵高校）、3月に昼食会を予定しています。
 感染症対策を図りながら、皆様と集まる機会を持つ事が出来るよう企画していきますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。



- ★本日のメニュー★
- ・お赤飯・鶏の唐揚げ・エビフライ
- ・切干大根の煮物・漬物
- ・小松菜とシーチキンの和え物
- ・ヨーグルト



今回のお弁当を調理して頂いた剣淵町奉仕団1班・2班の皆さん
 ありがとうございました。

老人クラブ連合
 会役員の方々と、
 仲町小公園の花壇
 造成作業が行われ
 ました。
 小雨が降る中、
 ありがとうございました。



会長挨拶



社会福祉法人 剣淵町社会福祉協議会

社会福祉協議会会長 柴田 泰成

日頃より社会福祉協議会の事業並びに活動に対し、特段のご協力、ご支援を賜り心からの感謝を申し上げます。

近年では少子高齢化が進み、65歳以上の高齢化率が42.2%と増加しております。みんなで支え合う地域共生社会を実現し、誰もが安心安全に暮らす事ができる福祉の町づくりを目指していかなければなりません。

「ふれあい広場」は、新型コロナウイルス感染防止の為、2年続けて中止の決定となり、開催する事が出来ませんでした。令和4年度は当初の計画では、7月9日（土）開催予定でしたが、各施設、団体の代表の皆さんからご意見を頂き、今後の方向性を協議した結果、延期させて頂く事となりました。

感染症対策の観点から、飲食を避けて動画配信などを含めて、各福祉施設との協力を頂き、色々なご意見をお聞きしながら、コロナ禍でも開催出来る方法を検討していく事となりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今後も社協が抱える様々な課題に取り組み、地域の皆様と共にこれからも活動を通して、前進していきますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

「福祉のまちづくり」会費のお願い

社会福祉協議会は会費・寄付金・町助成金・受託金・介護保険収入・共同募金経由配分金等を、主な財源として事業を運営しています。会費・寄付金は、まちを良くするための住民活動を支援し、住民が孤立しないような居場所づくりなど、住民参加を主体とした活動により、豊かな福祉のまちづくりを目指しています。地域福祉や在宅福祉の推進は、町民の皆さんの会費によって支えられています。

特別会費・賛助会費の納入については、7月から8月にかけて社協役員等がお伺いいたしますので、皆様の温かいご理解とご協力をお願いいたします。

- 一般会費（自治会を通じてお願いしております）全世帯対象 会費1世帯当たり1200円
- 特別会費 社会福祉等にご理解を頂ける個人の方対象 会費1口1000円
 （複数口の納入可能です）
- 賛助会費 社会福祉にご理解を頂ける法人・団体対象 会費1口3000円
 （複数口の納入可能です）

令和4年度 剣淵町社会福祉協議会事業計画書

今日の我が国における急速な少子高齢化と核家族化の進行などを要因とする社会構造の変化に加え、いまだ収束しない新型コロナウイルスの影響により、社会生活が変容する中で、今後の地域福祉をどう支え推進していくかが大きな課題と言えます。

また、地域共生社会の実現に向けて、住民や他の市町村社協、相談支援機関及び行政機関等との連携を図り、計画的に包括的な相談支援体制を構築することが求められています。

剣淵町では、高齢者や一人暮らしの世帯が増え、65歳以上の高齢者数は1,221人(2月末現在)に達し、高齢化率は41.66%と高くなっています。

こうした中、子どもから高齢者、障がいのある方すべての住民が住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる地域社会づくりのために、地域全体で支え合う福祉の増進が重要かつ急務となっております。

このため、社会福祉協議会（以下「社協」という。）は、剣淵町地域福祉計画（2019年度～2023年度）と連携した地域福祉実践計画に掲げられた取り組みを実践し、個々のニーズや利用者本位の介護保険事業等、福祉サービスを提供していきます。

また、行政はじめ、自治会、民生委員・児童委員、各事業所、ボランティア、地域活動団体等と連携した見守りと支え合いの活動や生活支援体制の整備に努めます。

なお、現在の社協には大きな課題もあります。社協では介護保険事業の指定事業所として居宅介護支援事業や訪問介護事業をはじめ、通所介護事業に取り組んでいますが、相次ぐ制度改正や社協が介護支援する利用者の他施設への入所等により、利用者数が減少し介護保険部門の経営は厳しい状況にあります。

さらには、一昨年に国内外において発生したコロナ禍のなかで、二年続けて自粛や中止となった社協の事業を今後どのように展開し継続していくか、危機管理や安全管理を優先して中止する一方、地域福祉が後退するという観点から、本年度以降の開催内容や方向性を模索しているところです。

本年度の法人運営、事業推進にあたっては、理事並びに職員が一丸となり法人組織のガバナンス強化と社協の健全運営に努め、福祉サービスを必要とする利用者やご家族の皆様に支持され信頼される身近な事業所として、法人運営・介護保険事業を展開するとともに、町からの受託事業や生活支援体制整備事業に対しても積極的に関わり取り組んでまいります。

町民の皆様をはじめ、行政及び町内福祉関係団体、ボランティア各位のご理解とご協力をいただき、地域福祉実践計画の「助けあい・思いやりのあるまち剣淵町」の基本理念のもと、新型コロナウイルスの感染症対策に万全を期し、安心安全の確保に努めながら、以下の事業を重点に地域福祉事業を推進いたします。

社会福祉協議会 主要事業の取り組みについてお知らせいたします

I. 法人運営

社協の財務運営は、会費・寄付金・町補助金・受託金収入・共同募金配分金収入等でまかなわれており、今後とも町民の皆様のご理解とご協力のもとに、将来に向けた社会福祉の充実を見据えた財務規律、経営組織のガバナンス強化と事業運営のより透明性を図り、適正かつ公正な法人運営に努めていきます。

また、本年度の町行政の方向性や施策を通して社協が担う地域福祉や在宅福祉の充実並びにこれからの地域状況や課題等に柔軟に対応できる社協体制の強化を図っていきます。

II. 地域福祉

1. ふれあい広場

「ふれあい広場」は、障がい者や高齢者など、社会的に不利な立場に置かれやすい人々が、地域社会の中で健常者と同じように共に生き、生活し活動することが本来のあるべき姿であるという「ノーマライゼーション」の理念を普及する事業として開催しています。

各種団体、ボランティアの協力を得て継続開催し、福祉のまちづくりを推進します。

2. 社会福祉合同運動会

老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、障害者支援施設など、町内福祉関係9団体の協賛により、町と社協の共催で開催しています。

3. 小地域ネットワーク活動推進

高齢者世帯や単身者世帯の増加と近所関係の希薄化等による引きこもりや孤独死の防止、災害時の避難誘導体制の整備など、行政だけでは解決できない地域問題に対して、地域全体が連携して助け合い、住み慣れた地域で「安心して安全に暮らせる地域社会づくり」につなげる小地域ネットワーク事業を本年度も継続して進めていきます。

地域でのこれら世帯に対する見守り・声かけ・援助活動などを社協が委嘱する福祉委員が中心になり、自治会や地域の人たちの協力を得ながら推進し、一人の不幸も見逃さない住みよい町づくりを目指します。

更に、昨年度開催した、講演会・研修会を基に本年度はより丁寧な支え合い、見守り活動を自治会単位で推進して行くためのはたらきかけを進めていきたいと考えています。

4. ふれあいサロンの普及推進

令和3年度 剣淵町社会福祉協議会 資金収支計算書

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位:円)

勘定科目			予 算	決 算	差 異
事業活動による収支	収 入	会費収入	1,826,000	1,826,200	▲ 200
		寄附金収入	3,710,000	4,870,000	▲ 1,160,000
		経常経費補助金収入	13,447,000	13,488,656	▲ 41,656
		受託金収入	5,429,000	5,459,158	▲ 30,158
		事業収入	136,000	191,425	▲ 55,425
		介護保険事業収入	20,258,000	21,035,613	▲ 777,613
		障害福祉サービス等事業収入	900,000	954,150	▲ 54,150
		受取利息配当金収入	1,000	529	▲ 471
		その他の収入	271,000	357,538	▲ 86,538
	事業活動収入計 (1)		45,978,000	48,183,269	▲ 2,205,269
	支 出	人件費支出	32,549,000	32,056,327	492,673
		事業費支出	5,652,000	4,268,279	1,383,721
		事務費支出	4,051,000	3,276,233	774,767
		利用者負担軽減額	82,000	78,937	3,063
		共同募金配分金事業費	992,000	974,747	17,253
助成金支出		450,000	408,000	42,000	
負担金支出		200,000	188,500	11,500	
その他の支出		120,000	98,720	21,280	
事業活動支出計 (2)		44,096,000	41,349,743	2,746,257	
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)		1,882,000	6,833,526	▲ 4,951,526	
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等収入計 (4)				
	支出				
	施設整備等支出計 (5)				
施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)					
その他の活動による収支	収 入	サービス区分間繰入金収入	1,800,000		1,800,000
		その他の活動収入計 (7)	1,800,000		1,800,000
	支 出	積立資産支出		258	▲ 258
		サービス区分間繰入金支出			
		その他の活動支出計 (8)		258	▲ 258
	その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)		1,800,000	▲ 258	1,800,258
予備費支出 (10)					
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)			3,682,000	6,833,268	▲ 3,151,268
前期末支払資金残高 (12)			11,968,000	16,257,282	▲ 4,289,282
当期末支払資金残高 (11)+(12)			15,650,000	23,090,550	▲ 7,440,550

ふれあい広場のお知らせ

毎年7月に開催しておりますふれあい広場ですが、新型コロナウイルスの状況を鑑み、関係各所と協議をした結果、今年については例年とは違う形での事業開催を検討しています。

何卒ご理解下さいますようお願いいたします。

「身近な場所で気軽に集まり仲間と楽しむ地域の憩いの場」として、町内6カ所に開設され参加者の皆さんに大変喜ばれております。

(4)生活ささえ愛事業「ささえ手」

高齢者・障害者の制度では対応しきれない日常生活のちょっとした困りごとに対応するため、町、社会福祉協議会、協議体が共同で取り組み、ボランティアセンターの協力を得て、「無償または有償」でのボランティア活動の活性化を図り、住み慣れた剣淵町に安心して住み続けられるよう「援助を受けたい人」に「援助ができる人」が支援する事業として行いました。

○生活ささえ愛事業（協議体）の設置状況

・サロンサポーター、老人クラブ、高齢者事業団、商工会、赤十字奉仕団、ボランティアセンター事務局、地域包括支援センター、生活支援コーディネーター

○学習会の開催（7月13日、2月3日）

○研修会参加 8月18日 オンライン研修

テーマ「地域の担い手づくり～高崎市の取り組み」

講師 高崎生活支援コーディネーター 目崎千恵子氏

参加者 18名

8月27日 オンライン研修

テーマ「支え合いを成功させるための研修マネジメント」

講師 池田 昌弘 氏

参加者 20名

○講演会の開催 開催日 11月22日

講師 星槌道都大学専任講師 畠山 明子氏

テーマ「コロナ禍の新たなつながり方」

参加者 38名

○支え合い・見守り活動実践学習会

開催日 12月14日

内容 グループワークによりどう実践していくかを話し合い最後に発表していただく。その後アドバイザーとして来ていただいた畠山明子氏より講評を受ける。

参加者 38名

○ささえ手運用状況

・期間 令和3年4月1日から令和4年3月31日

・活動内容 有償での掃除（14回）・無償での買い物代行（2回）

(5)新しいまちづくり運動

剣淵町新しいまちづくり運動の生活見直し運動の一環として、会葬礼状の印刷促進等に取り組む葬儀の簡素化に努めました。

3. 在宅福祉

(1)ふれあい昼食会

数え年70歳以上の独居者と数え年80歳以上の高齢同居者を対象に5月・11月は赤十字奉仕団の協力を得て開催しました。（9月・2月・3月は新型コロナウイルス感染予防で自粛のため中止）

開催回数 2回（ふれあい健康センター2回）・参加者数 延べ 83人

(2)敬老会助成

令和3年度限りという事で、助成しました。

対象者 町内在住で75歳以上の方 703名・支給額 351,500円（@500×703名）

(3)その他の支援

高齢者福祉支援活動としては、日常的な生活支援として、杖・アイスピックの購入助成、さらに、配食サービス等は町からの受託事業で実施しました。

配食サービス（安否確認を兼ね、毎週火・金曜日の2回）

利用者 延べ 2,079人1日（20.4人平均）

杖の助成 9本（本人負担 700円）

アイスピックの助成 9個（本人負担 500円）

4. 福祉事業推進

(1)広報啓発

広報誌「社協だより」は、社会福祉協議会活動の紹介や各種サービス事業を理解していただくために3回（7・11・2月）発行いたしました。

(2)福祉団体への助成 5団体 228,000円

・老人クラブ連合会・遺族会・高齢者事業団・相談員連絡協議会・赤十字奉仕団

(3)事務支援 4団体

・老人クラブ連合会・赤十字奉仕団・遺族会・高齢者事業団

5. ボランティア育成活動

地域福祉活動に欠かせないボランティアの人材確保のため、常時登録窓口を開いています。個人登録ボランティアが減少しており、社協だよりや研修会等をとおして加入促進を行いました。

団体登録 赤十字奉仕団・J A女性部ほほえみグループ

平成26年度から、士別市、和寒町、幌加内町、剣淵町の各社協が道社協の委託を受け広域で行います。地域で自立した生活が送れるよう、認知症高齢者や知的障がい者の方で判断能力が十分でない方に対し、福祉サービスの利用援助や日常の金銭管理などを行い自立を支援します。

5. デイサービスセンターりんどう通所事業（通所型サービスA）

平成29年度から、要支援1、2の方と緩和された要件に該当する方（事業対象者）を対象に町立診療所の空きスペースにデイサービスセンター「りんどう」を開設しています。

本年度は、さらに介護サービス内容を充実させ地域に根ざした運営に努めます。

6. 受託事業

介護予防ケアプランの作成、配食サービスなど町からの利用申請に基づき実施します。

令和3年度（2021年度）剣淵町社会福祉協議会事業報告書

令和3年度の事業運営については、当初の事業計画に基づき取り組んできました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大により、社会福祉協議会の主要事業である「ふれあい広場」が中止を余儀なくされ、「ふれあい昼食会」等の実施にあたっては、感染予防に最大限の注意を払いつつ、多くの団体やボランティアのご協力ご支援をいただき、少ないながらも開催をすることができました。心から感謝とお礼を申し上げます。

住み慣れた地域で「安心して安全に暮らせる地域社会づくり」につなげる小地域ネットワーク事業は、福祉委員を委嘱し自治会単位で訪問・声かけ・援助活動や自治会行事への参加等により実施されました。また、ふれあいサロンは、町内6カ所の地域住民の主体的な取り組みと参加によって、閉じこもりがちな高齢者の憩いの場として定着しつつあり、その広がりがますます期待されています。

介護保険事業では、平成27年度以降の制度改革で利用者本人に趣きを置いた仕組みづくりとなり、市町村が中心となるサービスの提供方法へと大きく様変わりしました。同時に介護予防をはじめ、社会的孤立などの問題は地域の力で解決していくという「支え合い」の地域社会へと変わってきました。こうした情勢を受けて、高齢者や障がい者などの日常生活を支援する、生活ささえ愛事業「ささえ手」を令和元年度から始めましたが、社協担当者の一昨年度末における退職、更には職員等の入れ替え等もあり、人員体制整備まで時間がかかったことにより、事業が停滞してしまいました。

他の事業では、居宅支援事業について利用者の転出、施設への入居等で当初計画していた利用数からは減少し、依然として事業所の経営面で厳しい結果となりました。しかしながら、訪問介護事業については、昨年よりも利用数が増加し経営的にはやや改善の兆しが見えました。

社会福祉協議会は、地域住民の参加のもと事業推進を図っており、会員の会費納入について、自治会をはじめ特別会員・賛助会員の皆様の特段のご理解ご協力をいただいたことに対し厚くお礼を申し上げます。また、剣淵町をはじめ関係機関・団体にご指導ご支援を賜ったことに対しまして心から感謝とお礼を申し上げます。

以下、主要事業の概要について報告いたします。

I 社会福祉事業

1. 法人運営

(1)会員の加入促進

①一般会員	951戸	一世帯	1,200円	1,141,200円	
②特別会員	583口	一口	1,000円	583,000円	
③賛助会員	34口	一口	3,000円	102,000円	計 1,826,200円

(2)事務事業管理

事務処理に万全を期すと共に、事業推進にあたっては当初の計画を基本として執行したほか、平成30年度から実施した障がい者居宅介護事業所「ホームヘルプセンターつむぎ」等の事業を積極的推進しました。

(3)職員研修

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い予防の観点から、リモート研修を中心に参加してきました。

2. 地域福祉

(1)ふれあい広場等の開催

①ふれあい広場

第33回ふれあい広場については当初計画していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い予防の観点から、2年続けての中止の判断に至りました。

②社会福祉合同運動会（町と共催）

これにつきましても新型コロナウイルスの感染拡大に伴い予防の観点から、中止となりました。

(2)小地域ネットワーク活動推進事業

地地域で援護を必要としている方の生活を見守り、支えていく助け合い運動として自治会を単位とし、自治会役員と福祉委員を中心に地域の方々の協力を得ながら全地域で基本活動である「見守り・声かけ・援助活動」等の助けあい運動として実施されました。

対象者 地域に住む70歳以上の独居者と80歳以上の高齢者 484名

支給額 448,800円（@700×484＋11自治会×10,000円）

(3)ふれあいサロンの普及推進